

# 暖房機 木質バイオマス普及

## 千葉県南房総市 燃費・CO2削減



丸太を投入する石井さん

首都圏圏外の花き産地の千葉県南房総市で、丸太やまきを使った木質バイオマス暖房機の普及が進んでいる。今シーズンから生産者が取り入れ、市内では50台が稼働する。負担が重い暖房費の削減につながる期待を集める。市は今回、20台を目標として普及を進めていく考えだ。

暖房機は、岩手県釜石「コロン木」とフリー市の石村工業が製造する「ホ」だ。市や県森林組合

安房支所、県などが連携し、まきを丸太を安定的に供給する体制を整えた。

同市東下の稲葉修司さん(28)は昨年12月下旬、カーネーションのハウス380平方メートル「コロン木」1台の稼働を始めた。一度に0.4立方メートルのまきを投入できる試験機で、重油暖房機を併用してハウスの内温度が10度を下回らないように管理している。

「冷え込みは厳しいが、重油の使用量が半分になった。暖房機に近い株は生育も良い」と、稲葉さんは効果を表

感する。ただ、丸太やまきが温まっていると火の付きが悪くなったり、ター

ルが発生したりする。「しっかりと乾燥した丸太やまきを供給してほしい」と要望する。

地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO2)の排出量を減らせることをメリットとして考える

同市千倉町の石井晴久さん(48)は、シンビシウムを栽培するハウス660平方メートル「コロン木」を設備。今年1月上旬から単独で稼働する。夕方に着火をして午後11時ごろに丸太やまきを再投入することで、

「夜温が氷点下を下回らないように管理する」と石井さん。暖房機と併せて循環扇を取り入れた。カーテン被覆をしっかりとすることで、熱が逃げないように気を配る。

市内では、間伐材の利用促進が課題になっている。市の担当者は「暖房機20台で新たに1000立方メートルの需要を生み出すことも可能だ」と期待をかける。来年度から助成制度を設けて農家普及を加速する。丸太・まきの品質向上と体制整備も進めていく考えだ。